

いろは文字鉤くさり（その二十七―囲碁夢浪漫）

汐尻成泰 

いろはにほへと ちりぬるを

色は匂へど 散りぬるを

わかよたれそ つねならむ

我が世誰ぞ 常ならむ

うゐのおくやま けふこえて

有為の奥山 今日越えて

あさきゆめみし ゑひもせず

浅き夢見じ 酔ひもせず

（ん）

いざ十九路じゅうきゅうろ

路を眺むれば

盤面寛ゆたに

日本囲碁の秀ほ

本流伝へ

へい隅辺すみへんと

疾とく急所打ち

些ちと手筋あり

凜乎勇みぬりんこ

抜く太刀光る

累世るいせの棋譜を

愛をしむ人の輪

和師日海にっかいが

風を起こす世

世に碁師数多あまた

大家現れ

歴道策だうさくぞ

その名は不滅

夙とに才跳はね

根から碁聖な

名うての棋士ら

磊磊らいらい継がむ

無比丈和氣宇じやうわ

打つ三手の威さんて

囲碁興隆の

望ましやおお

音いや深く

奇しき遊びや

やよ手談の間

まことよき酒

賢秀策譜

不敗御城碁

尖いと冴え

江戸を締むる手

天才のああ

妖しき技さ

坂田閃き

奇異シノギ見ゆ

夢を追ふ夢

酩酊その身

見よやその弟子

秀行の声

酔ひつつ競ひ

必勝の碁も

諸諸尽くせ

精確に寄す

(令和三年十月二十七日)

和師日海が〓僧日海(1559-1623)は京都の僧。碁に長じ織田信長から「名人」の称号を与えられ、秀吉、家康にも厚遇された。寂光寺の塔頭本因坊に住んでいて、本因坊算砂さんさを名乗る。今日タイトルとして残る本因坊のルーツであり、初代である。

世に碁師数多〓碁師は棋士に同じ。万葉集巻九にある碁師の歌二首(一七三二、一七三三)は碁に全く関係がない。巻四の碁檀越このだんをちの妻の歌(五〇〇)も碁とは無関係。碁檀越も不明。(巻九の碁師と同人物?、檀越は施主、檀那だが)。

歴道策ぞ〓歴は「れつきとした」の歴。価値が高いこと。道策(1645-1702)は石見(島根県西部)の生まれ。四世名人、四世本因坊。向かう所敵なく実力十三段と言われ、碁聖と称された。段位制を定め、名人〓九段、準名人〓八段、上手〓七段とした。歌聖人麻呂、画聖雪舟とも石見三聖人とか。

根から〓根っから、生まれつき。

磊磊らいらい継がむ〓磊磊は多くの石が重なっているさまで、ここでは名棋士が輩出したこと。

無比丈和氣宇〓丈和(1787-1847)は八世名人十二世本因坊。碁界の争碁の中で勝利。赤星因徹を三妙手で下し、因徹は局後吐血、数日後息絶えた(天保吐血の局)。

囲碁興隆の〓現今、囲碁に関するマスコミの取り上げは将棋に比べるとはるかに少ない。棋聖戦九連覇中、本因坊戦十連覇中等、平成令和の道策かと思わせる強者を頂上に、史上最年少十九歳で名人位を獲得したり、十歳の少女がプロ初段(今は十二歳二段)となり(入段最年少記録)勝ち星を重ねたり、多くの二十歳前後の若手が嘗てないほどの活躍を見せているのだが。

手談〓囲碁の別称。雅人が相對して手でやる清談。

賢秀策譜Ⅱ秀策(1829-1862)は十四世本因坊秀和の跡目。丈和は、入門してきた幼少の秀策を「百五十年來の碁豪、道策の再来」と喜んだ。御城碁十九戦十九勝無敗。幕末、秀策の没後江戸城内での御前試合御城碁は二四〇年の歴史を閉じた。

坂田閃きⅡ坂田栄男(1920-2010)は二十三世本因坊永寿。本因坊七連覇。タイトル制初の名人本因坊。一九六三年から六四年にかけての最多連勝記録29は今も破られていない。カミソリ坂田、シノギの坂田の異名。(しかし、昇仙峡の決戦では坂田の石が死んで大逆転。)

秀行の声Ⅱ藤沢秀行(本名保1925-2009)は豪放、破天荒の人生。棋風も異常感覚の評。棋聖戦では酒を断って打ち、一期から六連覇、名誉棋聖。その賞金は借金返済に消えたとか。六十七歳での王座はタイトル最高齢。秀行塾に多くの棋士集まる。通常秀行と呼ばれる。

## 後記

前作から一年余。

できない、できない。万葉集も、何も、文字鏝のルールに縛られてどうにも動きが取れない。時間ばかりが過ぎて、ああ、あの「二十六」で終わりだな、と。

それが、どういうわけか、ここ一、二カ月、三カ月、こんなものが生まれた。碁はこれまでも少しは取り上げたが、気の向くままに進めたら何となく形が出来てきて、こうなった。碁に興味のない人にはさぞ退屈なものだろうけれど。何にしても、もうできそうにない。

採り上げたい棋士はほかにもあるが、これもルールの制約上うまくいかず。また、現役活躍中の棋士は割愛した。

(令和三年十月二十七日)